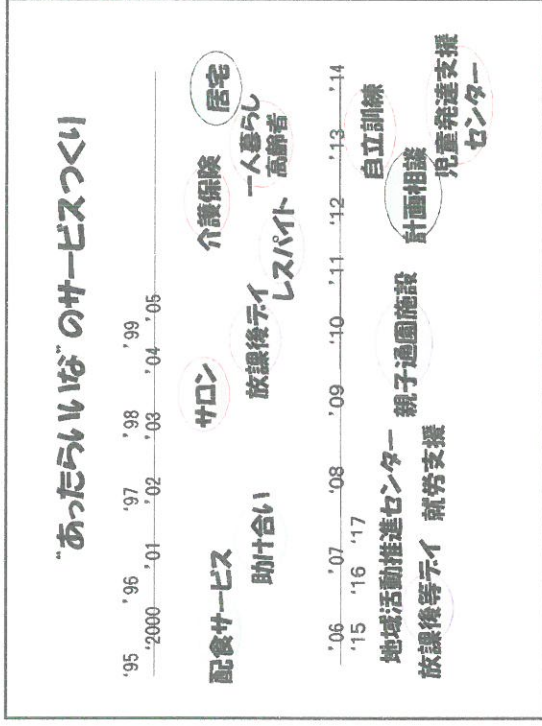


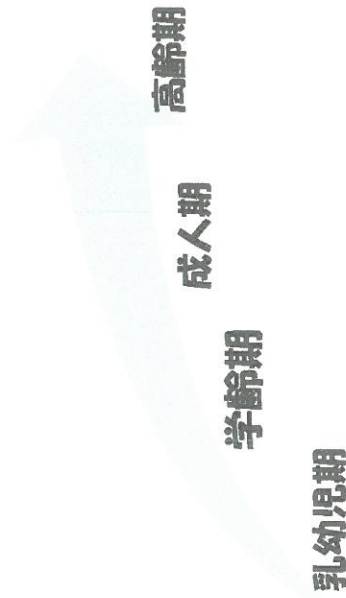
ライフステージに応じた切れ目のない支援

=目指すもの=

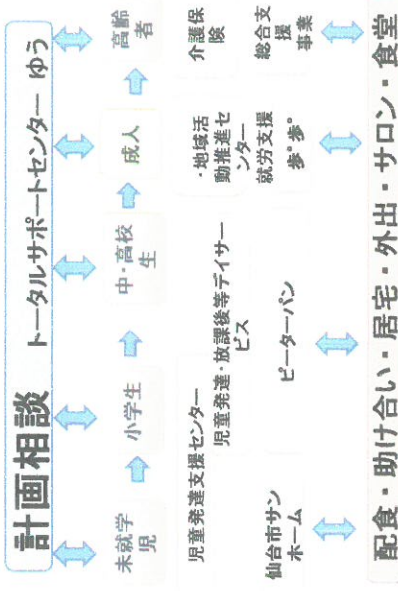
- 本人：個別の持てる力に沿った自立の実現
- 家族：家族の他に一人の人間としてのエンパワメント
- 支援者・支援機関：使命の達成
- 行政：社会の安定と市民の平和な生活の保障



つながる 生涯支援



ライフステージにそった支援サービス



成人支援から見える課題

成人の姿

- 自己肯定感の低さ
 - ライフスキルの不足
 - 家族の無意識支援
 - 個別特性支援による、自己肯定感、ソーシャルスキルの向上が図れる
- ↓
- ◆ 18年間の各ステージとの情報交換と連携の必要性

これからの支援

- 一人暮らしのイメージ作り
 - ライフスキルの獲得
 - 仕事マッチング・就労
 - グループホーム
 - 親・兄弟との親亡き後の話し合い
 - 権利擁護の利用
- ↓
- ◆ 生涯支援の仕組みづくり

個別の特性にそった 幼年期からの個別支援の必要性

支援者のアセスメント力の育成と個別特性に添った支援プログラムの実施

家族のエンパワメント支援

- アセスメントツールの共有
- 個別支援プログラムの作成実習・検証
- 相談事業所を交えた、支援会議による本人支援ネットワークの構築
- 自立・自身・自己肯定感の獲得

- 特性理解の為の家族研修の実施
- 家庭での穏やかな生活の為の暮らしの工夫の支援
- 家族の自己肯定感の回復
- 社会参加や提言の機会づくり

相談・計画相談の重要性

学校による計画相談利用の推進

- 高校卒業時の依頼が多い
- 複数のサービスの利用が必要な場合を優先せざるを得ない

相談・計画相談を行う人材育成

- 現場実習が効果的。
- 繋げる社会資源(サービスの熟知)
- 共感する力とジェネラリストの視点が大切

アーチルの連携先の設置

- 児童発達支援・子育て支援センターでの適応可能な人材と人数配置による実施の可能性。

南・北アーチル

子育て支援センター
児童発達支援センター

個人

事業所等

対策を探る

仙台市独自の支援計画の強化

- 10年程度のスパンでの仙台市独自の障害種別事業計画の策定
- 当事者も参加する評価委員会を設置して進捗状況確認
- 計画の見直しと見える化の実現

24時間緊急対応システム

- 各区に一つの緊急対応拠点設置
- 運営：常勤3名...専属
- * 泊りの補助員として、その区の事業所職員の出発派遣
- 指導：アーチル
- 事業：24時間相談(かけつけ)、アセスメント研修、メンター育成、ツール開発
- ◆ 一人暮らしの当事者・家族・地域・事業者の安心の実現

多目的・複合利用

- 公的施設や事業所等の規制緩和による多目的利用。
- トータルサポートはフォーマル・インフォーマルサービスの複合化が必須
- ◆ 必要なサービスの合理的施行
- ◆ 事業所の実施サービス枠の拡大・職員の複眼力アップ・効率化

- 事業・地域毎の支援者ネットワークづくり
- ◆ 相談の“よめごと会議”的ネットワーク。
- ◆ 学校も参加してもらおう。
- ◆ 支援者の“心”“技術”支援